

(仮訳)
プレスリリース

鎌田裕氏（日本）をITER機構副機構長（科学技術担当）に任命

フランス、サン・ポール・レ・デュランス（2023年1月27日）—2023年3月15日に、日本の鎌田裕（かまだ ゆたか）がITER機構副機構長（科学技術担当）に着任する予定である。

ピエトロ・バラバスキITER機構長は、鎌田氏の任命の発表に際し、核融合研究における数十年にわたる効果的なリーダーシップと、ITER計画との長年にわたる強い絆を強調した。

「鎌田氏はJT-60SAトカマク計画を13年間指揮し、建設完了まで導いたほか、現在副所長を務める那珂研究所（国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構量子エネルギー部門）において、複数の大型核融合研究開発のイニシアチブを取ってきた。国際トカマク物理活動（ITPA）への参加、ITER理事会科学技術諮問委員会（STAC）の議長、そしてITER理事会の日本政府代表団として、長年にわたりITERの研究目標を形作ることに関わってきた。彼がITERの幹部チームに加わることは、ごく自然な成り行きだと感じている。」

40年以上にわたるキャリアの中で、鎌田氏は大規模なトカマク計画のあらゆる段階を管理・指揮し、世界中の政府代表、利害関係者、産業界、原子力規制当局、科学技術協力者と交流する中で、専門性を培ってきた。この経験は、ITERの科学技術関係部門の戦略的指導と全体調整を確実に行うことや、ITER装置及び関連するプラント・システムの設計、建設、設置、試験、運転に責任を持つ人々・機関と協働することに、大いに役立つだろう。

重点的に取り組む領域として、鎌田氏は、統合された技術プログラムの適切な実施を確かなものとすることや、主要な建設・運転目標の期限内達成を危うくするような問題を提起すること、すべての科学技術に関係する活動において「一つのプロジェクト、一つのチーム」というアプローチを保証することについて、責任を負う。

鎌田氏は、東京大学で博士号（原子力工学）を取得後、那珂研究所に入所し、JT-60のトカマクプラズマ実験研究員として活躍した。その後、主席研究員、グループリーダー、ユニット長、先進プラズマ研究部長、副所長（2018年～現在）と、那珂研究所内に所属し続けながら、責任あるポジションを歴任した。また、同研究所のトカマク装置JT-60Uが、ITER運転計画支援を目的とした日欧合同チームによる大規模改修により、超伝導トカマク装置であるJT-60SAに改修された際には、日本側のプロジェクトマネージャーとプロジェクトリーダーを務めた。20年以上にわたりITPAをリードするとともに、多くの核融合プログラムの諮問委員会に貢献することで、世界中の核融合コミュニティと強い関係を築いてきた。研究に関する数々の賞を日本で受賞しており、31本の論文を執筆（その他251本を共著）している。

プレス発表の背景情報

ITERは、世界最大の核融合実験装置であり、核融合エネルギーの科学的・技術的実現可能性を実証するために設計されている。核融合とは、太陽及び星々にエネルギーを与える反応過程である。軽い原子核が融合して重い原子核を形成する時、膨大なエネルギーが放出される。核融合研究は、安全で、燃料が豊富で、環境適合性のあるエネルギー源の開発を目指している。

ITERは、初めての世界的な協力でもある。欧州が建設費のほぼ半分を負担し、この国際共同事業に参加する他の6極（中国、インド、日本、韓国、ロシア、米国）が残りを等分に負担する。ITER計画は、南フランスのサン・ポール・レ・デュランス市において建設が進められている。

ITER計画についての更なる情報は、<http://www.ITER.org/> を参照されたい。

(仮訳)
プレスリリース

ルオ・デロン氏（中国）をITER機構副機構長（管理担当）に任命

フランス、サン・ポール・レ・デュランス（2023年1月27日）—2023年4月1日に、中国のルオ・デロンがITER機構副機構長（管理担当）に着任する予定である。

政府間協力と科学技術外交の専門家であるルオ・デロン氏は、ITER計画との深く長いつながりがあり、それは中国がITER計画に参加するために交渉を行っていた頃まで遡る。彼は、ITER機構の設立に参加し、中国のITERへの物納貢献の遂行を取りまとめる中国国内機関の設立、職員派遣、先導を行い、2020年と2021年にはITER理事会の議長を務めた。現在は中華人民共和国 科学技術部 中国国際核融合プログラム執行センター（中国ITER国内機関）のセンター長として、ITERへ納入する18の調達のとりにまとめを担っている。

また、ルオ氏は核融合支持者としても国際的に広く知られ、世界的な協調・協力の促進に精力的に取り組んでいる。

ITERのピエトロ・バラバスキ機構長は、「デロン氏は中国が参加した2003年以来、ITER計画のあらゆる局面に積極的に関わってきただけでなく、核融合の可能性を確固として支持する世界屈指の『核融合外交官』の1人でもある」と、この任命の発表に際して発言している。「ITER計画とその関係者に関する彼の深い知識、幅広い国際的ネットワーク、そしてITERの成功に対する彼の深い献身は、管理に関する戦略的指導、プロジェクトの基本方針（スケジュール、コスト、リスク）の全体的な調整・監督の責任を担う上で重要な資産となる」と述べている。

ルオ氏は副機構長として、品質、安全／セキュリティ、広報、法務、情報技術、財務、調達、プロジェクト管理、人事を担当する部署の責任を担う。また、ITER理事会やその諮問機関とのコミュニケーション、「一つのプロジェクト、一つのチーム」の精神に基づく7つの国内機関との調整・協力、ITER加盟国の政府高官との対話を通じて、プロジェクトの目標達成に重要な役割を果たすだろう。

北京大学で科学マネジメントの博士号を取得し、機械工学の学士号を取得している。中国科学技術部で40年にわたる職務経験を有し、国際関係の構築に長期的に力を注いできた。ITER計画の支持と並行して、国内の核融合研究の牽引者でもある。中国のトカマク装置であるHL-2A／2MとEASTを稼動させた管理チームの一員であり、第1回中国核融合エネルギー会議を創設し、主催している。中国外では、核融合に関する多くの国際会議に参加し、基調講演を行っている。また、国際エネルギー機関（IEA）の「トカマクプログラムにおける協力に関する技術協力プログラム（CTP TCP）」の議長も務めている。

プレス発表の背景情報

ITERは、世界最大の核融合実験装置であり、核融合エネルギーの科学的・技術的実現可能性を実証するために設計されている。核融合とは、太陽及び星々にエネルギーを与える反応過程である。軽い原子核が融合して重い原子核を形成する時、膨大なエネルギーが放出される。核融合研究は、安全で、燃料が豊富で、環境適合性のあるエネルギー源の開発を目指している。

ITERは、初めての世界的な協力でもある。欧州が建設費のほぼ半分を負担し、この国際共同事業に参加する他の6極（中国、インド、日本、韓国、ロシア、米国）が残りを等分に負担する。ITER計画は、南フランスのサン・ポール・レ・デュランス市において建設が進められている。

ITER計画についての更なる情報は、<http://www.ITER.org/> を参照されたい。